

第6章 アセットマネジメント計画の進捗管理

アセットマネジメント計画を策定した後は、より効果的なものとするために進捗管理を実施し、計画の定期的な検証が必要である。

① 基礎データの更新

今後、収支の状況、更新事業の進捗状況などにより、将来の更新需要は変動するため、基礎データの更新は不可欠である。

毎年の決算額の数値を反映し、収益的収支、資本的収支、資金残高など計画がどのように変わっていくかを把握する。また、更新事業の進捗度、今後の更新事業の内容を把握し、適切に計画へ反映することが重要である。

② 更新計画のモニタリング

計画された水道施設更新計画が当初の計画通りに実行されているかを毎年把握し、更新事業の実施時期が必要以上に遅延することがないようにモニタリングを行う。モニタリングは計画の進捗状況表等を作成するなどして管理し、更新時期を延期した事業については、その理由や変更後の更新時期を明確にして記録に残しておく必要がある。

当初の計画と実績の乖離が大きくなった場合は、更新需要や財政収支見通し等の検証や、計画の再検討を実施する。

③ 施設・設備、管路のダウンサイジングの検討

人口が減少すると、現在の配水能力では過大になることが予想される。本計画は、現在の水道の供給能力を維持した場合を前提に、策定したものである。施設利用率の推移などで過度な能力が想定される場合には、既存施設・設備の廃止・統合や管路の更新順位の見直しなどを行って、更新対象を絞り込むことが必要となってくる。その際には、改めて施設規模の適正化を踏まえた更新需要を検討する必要がある。